

事例報告者の取組概要

・根本 要（ねもと かなめ）氏

（就労継続支援 A 型事業所アスタネ 施設長）【埼玉県さいたま市】

アスタネは、2015 年にさいたま市桜区に開設された、障害者就労継続支援 A 型事業所。利用契約者 36 名（定員 20 名）。精神障がいのある方が、しいたけ栽培を行う農業従事者として働きながら、経済的自立と安定した就業を目指す。

アスタネを運営している株式会社ゼネラルパートナーズは、就職・転職支援サービスなど人材紹介事業をはじめ、就労移行支援事業所を複数開所し、就職に向けた障害別の専門的な教育・研修も事業として行っている。

根本氏は 2016 年に入所し、2017 年に施設長に就任。

・ペーター・リンツ氏（Herr Peter Linz）

（公益有限会社聖アントニウス 農業部門長）

【ドイツ連邦共和国・ヘッセン州フルダ市】

公益有限会社聖アントニウスは、100 年ほど前にフルダ市の市民が設立し、フランシスコ修道院が運営補助してきた福祉施設。約 1,000 人の障害者と健常者、60 人の職業学校生、160 人の研修生が、農業（酪農、麦作、園芸など）、食品（製パン、製菓、食堂など）、工芸（家具、陶芸など）の各部門で働く。職員の他に 230 人の市民や若者 60 人がボランティアで活動を支える。

リンツ氏は農業部門の責任者である部門長。農場の経営面積は 375ha で、有機農業を推進。有機農業連合会のビオランド（Bioland）に所属。

・ヘルマン・シュライヒャー氏（Herr Hermann Schleicher）

（公益有限会社フレッケンビューラー・ホフ・フレッケンビュール 取締役）

【ドイツ連邦共和国・ヘッセン州ケルベ町】

公益有限会社フレッケンビューラー・ホフ・フレッケンビュールは、1984 年に 9 人のベルリン市民が子どもとともにヘッセン州西部の農場に移住し、依存症支援のための就労と共同生活の場を開設したことに起源。フェアライン（NPO 様の組織）を母体とする。約 250 人の依存症の克服を目指す人々が農業（酪農、畑作）、食品製造（製パン、精肉、チーズ製造）などの部門で働き、共同生活を営む。

シュライヒャー氏は農業部門を担当する取締役。農場の経営面積は 251ha で、有機農業を推進。有機農業連合会のデメター（Demeter）に所属